

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク
現場の声 ⑤

新型コロナウイルス禍における
差別の構造を考える

新型コロナウイルスに感染した人やその家族、また、医療関係者やその家族などへの排除や差別というニュースを耳にします。

暮らしづくりネットワーク北芝では、被差別部落を中心に誰もが安心して暮らしつづけることのできる地域づくりを基本に長年活動をしてきました。現在のこうした状況は、差

離など、間違った方向へ行かないか危惧されるのです。今回の構造は、元ハンセン病患者・家族への差別の問題とも非常に近いと思っています。

そこで大事になってくるのは、教育や啓発です。教育において、「パンデミックとは何か」をきちんと伝えていくべきです。だれもが差別される側にも差別する側にもなり得る状況で、その構造を理解しない限り、間違った差別が繰り返し生まれてしまいます。また、感染した人が感染を隠したり「自分は関係な

い」と言うスタンスになりかねないのです。部落差別の問題と同様にすべての人に関わる問題なのです。

私たちは、教育委員会などにもアプローチをしながら、社会で起きていることを学校に伝えて、こういう社会情勢が差別につながる可能性があると社会へ発信する必要があると思っています。

別の構造として非常に危ないと感じています。今回の状況が、部落差別と同じような構図ではないかと思っています。見えないもの、自らに降りかかるかもしれないことに対しての不安が、感染者や医療従事者、その家族に対しての忌避意識、それに対してのおそれ、関係断絶などにつながっています。分断や隔

NPO法人 暮らしづくりネットワーク北芝
(大阪府箕面市)
事務局長 池谷啓介

2020年6月8日